

船舶事故調査報告書

平成24年9月13日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成23年11月12日（土） 10時30分ごろ
発生場所	大分県佐伯市犬 ^{さいき} 戻 ^{いぬもどし} 鼻東北東方沖 佐伯市所在の蒲江港灯台から真方位081° 1,450m付近 （概位 北緯32° 47.3′ 東経131° 56.7′）
事故調査の経過	平成23年11月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート ブラックフィン、0.5トン 294-23312大分、個人所有 3.87m (Lr) × 1.85m × 0.79m、FRP ガソリン機関（船外機）、36.78kW、平成17年10月
乗組員等に関する情報	船長 男性 44歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成17年9月1日 免許証交付日 平成22年7月6日 （平成27年9月1日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	航海計器（GPS付き魚探）及び船外機に濡損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、佐伯市波 ^{はとうづ} 当津漁港を出港して佐伯市元 ^{もとぎら} 猿湾口を経て犬戻鼻東北東方沖に着き、海岸から約150m沖で水深約15mの場所に船首を南に向け、船外機をアイドリング状態として漂泊し、船長が船尾側、同乗者が船首側に立ってルアー釣りを行った。 その後、船長は、帰り支度を始め、下を向いて釣り道具を片付けていたところ、同乗者が声を上げたので、左舷方を見ると高波高のうねりが押し寄せて来るのを認めた。 船長は、とっさに船首をうねりに向けようとして右舵を取って後進をかけたが、うねりにより船体が左舷側に傾いたとき、海水が左舷船首部から船内に打ち込み、平成23年11月12日10時30分ごろ蒲江港灯台から真方位081° 1,450m付近において転覆した。

	<p>船長及び同乗者は、僚船に救助され、本船は、復原されたのち、巡視艇により佐伯市元猿漁港にえい航された。</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好、気温 約21℃ 海象：風浪 なし、うねり 東、波高 約2m、水温 約25℃</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、風浪はないものの、波高約2mのうねりがあり、何十回に1回は波高約3mのうねりを認めていた。</p> <p>同乗者は、北西を向いて釣りを行っていたとき、これまでと違う船の動きを感じたので振り返ったところ、押し寄せる高波高のうねりを認め、船長に知らせようとして声を上げた。</p> <p>船長は、ほぼ毎週末に本船に乗っており、本事故発生場所付近の海域で年に数回釣りを行っていた。</p> <p>船長は、本事故発生当時とほぼ同様の海象の下での操船を数回経験していたが、事故なく運航できていた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、犬戻鼻東北東方沖において釣りをを行いながら漂泊中、船長が、帰り支度を始め、うねりに対する見張りを適切に行っていなかったことから、うねりの接近に気付かず、うねりにより船体が傾斜して海水が船内に打ち込み、転覆したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、犬戻鼻東北東方沖において釣りをを行いながら漂泊中、船長が、うねりに対する見張りを適切に行っていなかったため、うねりの接近に気付かず、うねりにより船体が傾斜して船内に海水が打ち込み、転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海面の状況を把握できるよう、常に見張りを行うこと。